十三日夕刊
磐城時報

福島縣石城郡平町新田町十四番地 編輯兼發行人 岡田弘彦
印刷人 福島縣石城郡平町新田町十四
印刷所 福島縣石城郡平町紺屋町十五 如春活版所
發行所 磐城時報社
一部金武錢一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊 日曜、祭日休刊

新知事巡視の序に 大瀧事件の調停 鶴首して待つ平町民 一般では一日も早き解決を希望

平町大瀧發電所問題は平町が行政訴訟に敗訴して以來町民間に發電所との妥協を說く者漸次多くなり、之等の一派は許可反對同盟會と相對抗して互に宣傳戰を試み平町の天地は嘗て事件が勃發した大正十三年當時に返つた觀がありこのまゝで行けば問題は何時解決するやも知れず地方の一大損失であるとして本郡出身の政友會支部幹事長佐藤庄太郎氏は既報の如く縣廳に半井內務部長を訪ひ、同氏が、平町でも電氣會社でも承認し得ると信じてゐる妥協案を披攊した上縣が調停の勞を執る事を依賴したゝめ當局では種々考究中であつたが、平町の騒ぎが日に增し形勢惡化の度を增して來るので捨ておけずとなし來る十六日伊藤新知事が濱通り初巡視のため來平するを機會として自ら調停の勞をとる事になつたといふが之を知つた平町民はその一日も早き解決を希望する余り知事の來平を鶴首して待つてゐる狀態である。

▲苗代害虫驅除 平町

農會では去る十三日水稻苗代の害虫驅除を計る目的で除虫菊四十七ポンドを購入し各農家に無償で交附し郡農會大山技手指導の下に目下驅除中である。

磐城講道館 有段者會發會式 嘉納氏柔道の道を說く

石城、相馬、双葉三郡磐城講道館有段者會の發會式は十二日午前十一時から平町平劇場で擧行されたが、朝野の名士數百名臨席の上會長諸橋守次氏開辭を述べ、橋本副會長發會に至る經過を報告し、次いで縣議井上茂作平署長樫村慶、磐中校長唐土齊治、平町長伏見彥衛、磐中同窓會長白井一郎、平在鄉軍人分會長山崎淸三、平青年團長三森虎雄各氏の祝辭あり終つて嘉納治五郎氏は柔道に關し、單なる武術ではない、精力を最善に活用せしむる道であるとの遠大な目的を說く處あり、桐谷文平氏の發聲で萬歲を三唱し午後からは一般入場者をも容れて柔道に關する講演會を開き▲柔道私見五段鷹崎正見▲柔道の起源三段岡田朝五郎▲柔道講演大角柱嚴等各氏講演の後嘉納師範の大講演あり終つて橋本八段、岡田三段、長岡八段、高橋六段、櫻庭六段、鷹崎五段、山下八段、村上六段等各氏が柔道の型を實演し最後に櫻庭六段が青天目三段齋藤二段、鈴木二段、鈴木三段片寄四段を相手に亂捕の壯擧を演じ午後三時半閉會した。

住吉屋で 嘉納氏歡迎會

平町有志發起にかゝる講道館創設者貴族院議員嘉納治五郎氏の歡迎會は十二日午後五時から住吉屋本店で開いたが會衆者百余名、伏見平町長主催者側を代表して挨拶をのべそれに對し嘉納師範は、日本の習慣として獻酬を行ふが、その結果思はぬ醉ひを見る事がある、精力善用の所以でないから之を撤廢しては如何と論じ、直ちに宴を移り午後八時散會した。

お菓子を呉れて子供を淩ふ 石城に人淩ひ出沒 子を持つ方は御用心

湯本町成田山下志賀カチ三女志賀キミ(八ツ)は去る十日午後九時頃錢湯に行つた歸途自宅前道路に於てトルコ帽をかぶつた四十歲前後の男が現はれキミを甘言でだまし菓子を食べ乍ら東京に行かうと連れ出し、十一日の午前二時湯本驛發准急行列車で東京に出發せんとしてゐたのを志賀方で大騒ぎをなし搜索隊を作つて附近を搜索中停車場附近を徘徊してゐる怪しい男を誰可した處キミをその場に置いて逃走したが人淩ひらしく平署でも物騷な事だとして犯人嚴探中

▲十三日會例會 平

十三日會例會は十三日午後七時から平銀行樓上に開き四倉町磐城セメント會社事務部海軍少將山崎正策氏、入山炭礦經理課長吉田宗雄氏、最近海外から歸朝した森喜代一氏等の講演があるさ

平驛に 空氣制動機 檢查所を設置

常磐線各貨物列車は過般來空氣制動機の布設試驗中であつたが愈々同機の有利なる事が判明したので實施する事になり今回平驛構內に空氣制動機檢查所なる大規模の建築をなした。

榮えある優勝カップは 磯原の手に歸す 磐炭、仙鐵等枕を並べて倒る 三縣聯合庭球大會

平庭球倶樂部主催茨城、福島、宮城三縣聯合庭球大會は十二日午前九時から平商業校、九曜コートの二箇所で擧行されたが、參加組六十余、定刻大森會長の挨拶に次いで前年度優勝仙臺鐵道局後藤、山內組から優勝カップ返還あり試合に移つたが、第四回後の成績左の如く優勝カップは磯原クラブの茅根、稻葉組の手に歸した。

▲第四回戰

日立(出羽 金子)	1―3	平(篠塚 根本)
仙鐵(伊藤 工藤)	2―3	磯原(茅根 稻葉)
平鐵(田中 今野)	0―3	磐炭(武者 根本)
小野田(田村 猪狩)	0―3	磐中(篠原 鴻池)
原町(古內 島)	3―2	平(大坪 大內)
平(本間 樋口)	0―3	仙鐵(鈴木 小島)

▲第五回戰

日立(田邊 西宮)	1―3	二本松(蛭田 大崎)
平(篠塚 根本)	0―3	磯原(茅根 稻葉)
磐炭(武者 松本)	2―3	仙鐵(後藤 山內)
磐中(篠原 鴻池)	0―3	原町(古內 島)
二本松(蛭田 大崎)	1―3	仙鐵(鈴木 小島)

▲第六回戰

仙鐵(後藤 山內)	2―3	磯原(茅根 稻葉)
原町(古內 島)	3―0	仙鐵(鈴木 小島)

▲決勝戰

原町(古內 島)	3―4	磯原(茅根 稻葉)

四倉濱でも鰹の大漁

四倉町新町大河原藤造氏所有船四十八社丸は銚子沖にて鰹を一千一百本を釣獲し、仲町石井鐵三郎氏所有船四十八社丸は十一日鰹四千五百本を漁獲し午前六時頃四倉濱に水揚げをしたが四倉濱本年最初の鰹漁で水揚相場は十二割內外に下つた、愈々鰹の期節が到來し四倉も昨今の不景氣風も盛返し漸く活況を呈して來た。

紹介所の世話で 今は模範の雇人 大鶴屋の大山君

職業紹介所の求職者等は天下の浮浪人が多く、眞面目なものではないと世間で思つてゐるが、こゝにかうした想像を裏切りその誤解を一掃するに足る人が現はれた。平紹介所の世話で平町紺屋町菓子製造業大鶴屋方に雇はれた大山幸榮(二二)君である。大鶴屋主人は語る「大山君は十三年十月紹介所の紹介で來た青年でまだ滿四年とはなりませんが眞面な働き振りには敬服の外はありません、大山は東京の相當の餠菓子屋で立派な技術を持つてゐるのだから餠菓子屋として充分に店を經營して行く手腕もありまた他店で働くにしても其方面の製造屋へ行けば宜い給料にもなれるのですが、本人は實家が平窪村で家庭の事情から將來は平町へ開業したいと言ひ夫れにしては餠菓子製造だけでは困るからと干菓子の製造に餘念なく研究しながら毎日働いてゐますが製造の合間には販路を擴張に菓子箱を背負て卸しに出かけ寸暇もない程働き續けてゐます、近頃では幾分でも給料の多い處を漁つて步く人の多い世の中にほんとうに珍らしい青年です、殊に一昨年盲腸でひどく患ひをしてからは尙一層働かなくては主人から受けた世話になつた恩報じが出來ないからと益々一生懸命になつて他の者に範をたれ働いてゐます、また同人が私共へ來てからは今日に至る迄毎日朝三時半から四時頃には起き出して他の職人が仕事を初める前に火を入れて置くと言つた樣な普通の者では眞似も出來ぬ鞏固な意志の持主です。

教育部會で 教育講習會

石城教育部會第一支會では十二日植田小學校に於て東京高等師範學校の佐藤教諭を招聘し教育講習會を催した。

▲湯本運送合同 石城

郡湯本町公認運送店湯本運送、三函運送兩店の合併はその後着着と進み資本金十萬圓の湯本運送株式會社を創立しこの程創立總會を同町に於て開催したが重役は左の如く決定した。▲取締役社長長岡義守▲取締役色川光治、鯨岡誠祐、高木正巳▲監查役渡濃渡、岸淸吉

湯本町にチブス續出

湯本町入山炭礦長屋に五月中旬頃から腸チブス患者續出し目下十八名の多數に達してゐるが益〻蔓延の模様で當局でも死者狂ひ豫防中である。

▲板野主事視察

本縣板野農林主事は中央金庫主事塩田龜造氏と共に十三日來平石城販賣利用組合公設繭市場を視察した。

▲野崎氏の葬儀

小名濱町故野崎才助氏の盛大な漁業組合葬は既報の如く十二日午後二時自宅出棺同町淨光院で佛式により營まれたが、赤十字社、縣水產會、石城郡水產會各代表者の外二十數氏の弔辭朗讀あり會葬者千余名地方稀に見る盛葬であつた。

▲酒造組合總會

石城郡酒造組合總會は十九日午後一時から平稅務署樓上に開き組合長の改選を行ふ筈だが現組合長永山和平氏再選の模様である。

遊興して裏口から逃走

草野村大字赤沼大工職四家熊五郎（二五）は十二日午後十一時頃平町鎌田町遊廓大豆樓に登樓し娼妓朝妻を相手に二圓六十錢を遊興し裏口から逃走したのを出張中の平署青田、川上、柴崎刑事に捕はれたが同人は本年四月平町南町羽金方から腕時計一個を窃取した事あり余罪取調中である。

東京松坂屋の出張大賣出し

東京上野松坂屋は當地方に出張賣出しを催しその都度多大の好評を博して居るが今年も夏物需要期に先ち流行品の眞隨を集め別安値品に至る迄最も豊富に陳列し來る十五日より住吉屋本店で賣出しを開催する由、是が開催の上は夏物需要界に一段の活一加ふるに日用品、雜貨類から特

京東株式清算取引高低表

（東株ハ當中先限他株ハ先限ノミ）

◎第一部				白煉日セ	二八〇	磐七	六〇一
寄付				淺野同新	三四四	久原	五六六
東株（當）一五二八	一五三三	止			七八八	同新	一七八
（中）一五三八	一五四〇				三八七	日石	五七七
（先）一五四九	一五四七			◎第三部			
同新（當）一四二一	一四二二			自動	三四九	樺太	五六五
（中）一四二七	一四二八			同新		日魯	一二一
（先）一四三七	一四三七			富紙	七七三	同新	一〇七〇
郵船同新	七二五	同新二新	四〇四	同新	二八八	日粉	九四五
富紡同新	二二六	塩糖	五一五				
鐘紡同新	二三〇四	新高					
同新日糖	二六五	同新濱取	二八〇				
	九六八		四一九				
◎第二部							
麥酒同新	五八八	麥鑛					
	六二五	熱帶					

短期前場

寄付	高値	安値	引値	塩水	五一〇	五一三	五〇八
				久原	五六〇	五六〇	五五八
				新淺	三六九	三七三	三六八
				日石	五六九	五六九	五六八
				新鐘	三六六	三七〇	三六八
				新東	一四一〇	一四一四	一四一三

東京商品取引

（六月十三日前場）

◎期米

六限	七限	八限	
一節	二四一	二七四	二七五五
二節	二七四〇	二七六二	二七五五
三節	二七三九	二七五七	二七五一
四節	二七三六	二七四九	二七五一
五節	二七三九	二七五一	二七五二
六節	二七四〇	二七五二	二七五五
七節	二七四一	二七五四	二七五一
八節	二七三九	二七五四	二七四八

◎綿糸

一節	二節	三節	四節	
六限	二三六二	二三六六	二三六〇	二三六一
七限	二三〇〇	二三九二	二三八三	二三八四
八限	二三三一	二三二〇	二三〇七	二三〇七
九限	二三四七	二三三九	二三三四	二三三四
十限	二三七五	二三六一	二三五〇	二三五一
十一限	二三七〇	二三六九	二三六〇	二三六〇
十二限	二三七六	二三七一	二三七〇	二三六九

◎生糸

一節	二節		
六限	一四六〇	一四六二	一四六三
七限	一四七三	一四七五	一四七四
八限	一四七一	一四七一	一四七一
九限	一四七二	一四七二	一四七三
十限	一四七八	一四七七	一四七四

驚いた!!!

こうまで安いとは
—加納活版所の印刷物!!

本年頭初より愈々本建築工事に着手し昭和三年末には一萬坪に近き屋上迄十一層の大建築出來の筈、竣成の曉は上野の空に一大偉觀を呈すならん。

東京 松坂屋出張大賣出し

夏物の御用承はり度く本年流行の絹綿布を始め雜貨類より特別安値品に到る迄最も潤澤に取揃へまして御伺ひ致します開場の節は御高覽の上御用命の程を

◆時日 六月十五日・十六日　毎日 午前八時より 午後五時まで
◆會場 平町紺屋町住吉屋旅館

特別安値品

小紋絽縮緬	十八圓	眞岡中形	一圓二十錢
明石絽羽織地	十二圓五十錢	晒木綿	五十錢
仙台染絽片側帶	十八圓 七六圓	婦人洋クレープシャツ（二枚）	三圓五十錢 五圓五十錢 七十錢
五圓八十錢		德用石鹸（半打入）	五十錢

古來よりの靈藥 支那六神丸 定價一圓・二圓・五圓
眞正の六神丸として好評偉大

復方チアスタージゼ錠
あらゆる胃散にて癒ざる人々に直ちに服用を勸む
大販賣店 山野邊藥局 平町五丁目角

開始 柳川 御一人前出前 四拾錢迅速
本年も相變らず御贔負の程願ひます
牛肉 御料理 石川亭 平町田町（電話四三番）

良品廉賣に勝る商略なし!!!
磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵金物問屋 ㊁ 釜屋商店 磐城平電話九三九番

確實敏捷は㊁の生命なり!!!

故野崎才助儀

葬送の際は遠路之處御會葬被下且つ御鄭重なる御香奠を賜り難有奉謝候一々拜趨御禮可申上之處乍畧儀以紙上御厚禮申述候

昭和二年六月十二日　福島縣小名濱町

喪主 野崎三郎
親戚總代 志賀要平
友人總代 比佐庄兵衛
小野水政次郎
野平晋

◎簡易の金融—誠意と堅實 ◎趣味の貯蓄—共存と共榮
▲絶へず會員を募りとす ▲何時でも御申込下さい
大藏省免許 磐城無盡商會
本店植田町本丁 支店平町中丁